



郵便  
**報知新聞**  
 第四百八十一号

深川の唄妓小三井上文雄翁の弟子を  
 歌も洋吟手逆も美事ありければ大時  
 香ありし其妹のたいらも姉も統て此二藝  
 と能くも上心もせし正しければも  
 掛く頼む男の外更も移さ香をせにせ  
 さし或る時去る大家の隠居の骸  
 歌も腰折るる人目と忍びて葉の短冊  
 とはろが袂ふ入れば何やらとるるに  
 中さるる命うらも思ふれ  
 君うひくとの露のあまけりに  
 とほりしをいふ果と果うしが年寄  
 に赤愧かせんもさうに思ひを端か  
 一枝梨花歴海棠餘所のる目も  
 いらねんと認めて戻せしとを

松林伯圓記



大橋  
 芳  
 館

錦堂

